

辻新次 しんじ 教育行政家。天保十二年一月九日信濃國松本生れ、大正  
 四年十二月二日歿（一八四一—一九五）。字六我、幼名鼎吉、通稱理之助、  
 新次郎、のち新次。號信松、信松居士、信松産士。澤靈寺敬館、學び、  
 文久元年江戸へ出て番書調所に入り洋學を修める。慶應二年開成所教  
 授手簿、次で教授試補、明治四年大學大前教へ進み、翌年大學南校校  
 長となる。七年文部省設置の際に文部權少丞となり、學制の立案に關  
 與。更に文部大書記官、文部大臣官房長等を経て、十九年初代文部次  
 官兼總務局長。この間大日本教育會會長、二十一年改稱帝國教育會會  
 長、二十七年には仁壽生命保險合資會社設立に當り社長就任。お大暮  
 末に すい「遠近新聞」を、明治十年「教育新聞」を發刊してゐる。妻里  
 子（舊姓岩波、本名サトコ、嘉永元年一月生れ）は和歌を能くす。  
 「吉田松陰」(他)々々著・帝國教育會編、明治四十一年十二月二十  
 二日弘道館)の他、辻男主權謝恩祭記念 (大正二年九月八日岩垂惠徳  
 編輯)の「男爵辻新次先生竊松本澤靈寺敬館」附載。

